Miyagi Prefecture Forest Instructors

MIFI NEWS

＜相馬市立向陽中学校 森林環境学習＞

特集 「協会活動“総ざらい”」

協会活動フィールド
イラストマップ付き！

62

2017年5月

NPO法人　宮城県森林インストラクター協会

宮城県森林インストラクター協会活動について

会長　13期　太田　雅夫

平成29年度に入り宮城県森林インストラクター協会は創立から19年を迎えました。会員の皆様には今年度も多くのご指導ご鞭撻、何より協会活動のご協力を今年度もよろしくお願いいたします。新会員になられた24名の18期生のみなさん、期待をいたしております。ここで協会のことについて紹介をいたします。

現在、協会の会員数は273名、準会員、特別会員を含めると300名近い仲間の会員数となります。無償のボランティアとしての活動協力をいただいていることをこの場をお借りしてお礼申し上げます。また協会の活動には宮城県や民間、公共団体、関係機関など多くの協力連携があって、協会の活動が遂行されております。

宮城県森林インストラクター協会は宮城県森林インストラクター養成講座の受講生が、宮城県から認定をいただいた会員によって主唱され、平成10年に第1期の受講生の方がたによって創立され、5年後には特定非営利活動法人として、平成15年1月20日認可をいただきました。平成16年4月からは県有の施設「県民の森」の運営管理の受託業務も始まりました。特定非営利活動法人認定から数えると協会は14年目となるわけです。協会の創立時からは19年たったことになります。協会の活動はそれに伴って年々活動の内容が増えております。今年の協会の定期総会で報告された事業活動報告書にあるように、協会の活動は多岐にわたり、しかも中身の濃いものとなってきております。

ちなみに平成28年度1年間で行われた活動は712件、それに協力いただいた会員の延べ人数は4,226人になりました。そして参加いただいた方は13655人になりました。驚異的な数字を打ち出しています。しかし協会としてのスタンス・基本の考え方は一言で言えば

「多くのひとに自然と関わることの楽しさ、大事さを伝えることのお手伝いである」

にあります。

協会の定款にも目的として「森林・林業の普及、啓発を行うとともに、自然環境に配慮した健全で豊かな生活の形成に社会奉仕を旨として、貢献すること」が謳われております。また平成25年には具体的に協会の進むべき方向と活動として「協会の理念」が提案され

（1）社会的使命（これは定款の理念とほぼ同じ）
（2）目標（協会の目指す方針が書かれています）
（3）会員の行動規範

が宣言されています。（3）会員の行動規範のなかに具体的には次のように謳われています。

①自然に親しみ、自然を貴重な文化として育む精神を尊重する。
②ボランティア精神を尊重する。
③森林・林業・森林内の安全・森林教育の各分野の知識・技能の習得及び体験学習に積極的に取り組む。
④明るく、元気に、誇りを持って積極的に活動する。
⑤謙虚な姿勢を心がけ、相互の交流や親睦を大切にする。

このように活動の種類が増え、規模が広がり、全体をつかむことはむずかしくなっていますが、わからなくなりそうなときは、親しい仲間を作ること、そして**「多くのひとに自然と関わることの楽しさ、大事さを伝えることのお手伝いである」**を忘れないでこれからもどしどし協会の活動に積極的に参加していただきたいと思います。

目次

Ｐ１　巻頭言
Ｐ２　きかくがいろん
Ｐ３　子どもの環境教育
Ｐ４　海岸林
Ｐ５-６　協会活動フィールドー覧
Ｐ７　はじめまして１８期生です
Ｐ８　新職員紹介
Ｐ９　安全のページ/インフォメーション
Ｐ１０　リレー式/編集後記
Ｐ１１　施設だより

きかくがいろん

生物多様性とスマホは・・・

1期　木村 健太郎

野山を歩くときは、できるだけラフな格好で歩きます。素足にサンダルで藪こぎすることも多いので、いつも足は傷だらけ。痛かったり痒かったり突然腫れてきたり大変です。

しかし、自然に足を踏み入れるということは、たくさんの自然の生き物を踏み潰してしまうわけですから、完全防備で自然を蹂躙するような西洋的な感覚ではいけない。常に自然に反撃の機会を与えておき、自然に対する畏怖の念と自然の生き物を敬う気持ちを忘れないようにしておきたいのです。

もちろん、ハチやイラガに刺されたりドクガに触れてかぶれたりするのは日常茶飯事ですが、「いやぁ、またやられたなぁ」という程度で、別に頭にも来ません。少しの間「痛い・痒い」を我慢すればいいのです。

最近はマスコミが必要以上に危険を煽るので、日本の森にも危険な生き物が溢れているような印象を与えてしまっています。しかし、森はそんなに怖いでしょうか。私から見れば東京の新宿駅や地下街のほうがよっぽど恐怖を感じます。小さな生き物がたくさんいる場所のほうが、何の化学物質があるかわからない場所よりも安心・安全なのは当たり前です。第一、大きな地震が来たらどこに逃げるのですか。

私は、とっても自然豊かな日本に生まれたことにいつも感謝しています。些細なことが何でも幸せに感じられるのです。だから、日本に生まれたみんなにこの豊かな自然をたくさん味わって欲しいのです。「痛い・痒い」も素敵な自然の一部で、私たちが自然の生き物である証拠です。

しかし、政治も教育も産業も全て、生活圏への自然の侵入を許さず、全てを都市化してコントロールしなければ気が済まなくなってきました。従来は東京や大阪に行った際に強く感じていましたが、最近は、仙台市近郊の新興住宅地も「自然豊かな環境」をうたい文句にしながらも自然をシャットアウトし、人が管理しやすいことを優先させる団地が増えてきたように感じます。自然を大切にする機運が高まっているように見えて、実は自然離れがどんどん進行しているのです。

まだまだ社会に浸透しそうにない「生物多様性の10年」があと数年続きますが、生物多様性の維持・保全には大賛成です。仕事柄、毎日のようにさまざまな生き物のリアルな生活を覗き見ることができるので、そのひとつひとつがどんなに素晴らしく、そしてどれだけデリケートなことか良く分かります。

しかし、都会で生活している人たちにその素晴らしさを理解させる自信はありません。都会に住むほとんどの人には、既に生物の多様性が見えなくなっているからです。ハチはすべて恐ろしく、すべての毛虫に毒があり、ヤスデやワラジムシを「不快害虫」としてひとまとめにしてしまう人たちが、生き物は種類も生活も実に多様で、人間もそのつながりの一部であるということを理解できるわけがないのです。

生物多様性について理解したければ、まず、自分が多様な生き物の中の一種類だということを認識しなければなりません。生き物である限りは、常に生命の危険にさらされており、何かが起きても自分のせいなので、諦めるしかないのです。

山で迷ったら自分の判断ミスで、転んでけがをしたら自分の不注意です。そんな当たり前のことが、都会で生活していると分からなくなってきます。道に迷ったらナビや地図が不親切で、転んだら「こんなところに段差を造ったのは誰だ」と犯人探しを始めてしまいます。悪いのは常に他人で、自分の鈍い感性や散漫な注意力に気づいていないのです。

人間はどのようにして「生きる力」を養っていくのか、「経験」はどのようにして培われていくのか、未就学児を見ていると良く分かります。

まずは五感を使ってさまざまな情報を収集し、その情報を頭の中で整理・分析し、次の行動を起こします。行動の結果は「経験」として蓄積され、「生きる力」が養われるのです。

未就学児の行動パターンはまさにこれです。「感じ、考え、行動する」様子が確認できます。そして、「生きる力」に溢れ、判断ミスの少ない人を「賢い人」と呼びます。

それでは大人はどうか。冷暖房完備の衛生的な室内で生活し、情報はスマホ等で必要以上に収集し、そのまま何でもスマホで調べ、指先ひとつで何でも動かせる時代になってきました。これは、「賢く」なっているというより「バカ」になって「生きる力」を失い続けているのではないでしょうか。さらに、ＳＮＳなどに依存し、常に攻撃する相手を探して見えない網を張っているようにも見えます。「いじめをなくそう」とか、「生きがいを探そう」とか、かなりの大人が陰湿な「いじめっこ」になってしまっている社会で、どうやって健全な子どもを育てるつもりなのでしょうか。

少なくとも、カタクリが咲いた、キビタキが鳴いている、アゲハが飛んできた、そんな些細なことがとっても幸せに感じる生活をしていると、他人をいじめたり生きがいを失ったりすることはないと思いますが。

～子どもの環境教育「自然体験活動」～
森林を自分の生活とつなげて考えられる子どもを育てたい

５期　日下　晃

森に行くのが楽しみで「早く行きたいなあと、わくわくした。」「森に入った時最初はすごく緊張した」が、「森の中はふしぎとおどろきの連続だった。」「枝を切ったり、道を作ったりしておもしろかった。」「食べられる木の実があったり、竹や木の枝で笛やおもちゃが作れたり、楽しいことがいっぱいあった。」（H28・6われら森林たんけんたい・青小の森プロジェクト」四年生感想文より）森づくりに参加した子どもたちの声を拾ってみました。

○「森づくり」を軸に様々な手段で「自然体験」を！

昨年度の私たち協会の活動を振り返ると、企画した事業への一般の参加者が二万人を越え、内子どもたちの参加者が一万二千人ほどになり、子どもたちとの関わりが多いことがわかります。森林インストラクター協会の理念は、「豊かな森林を未来にひきつぐ担い手の育成を通じ、青少年の健全育成をめざす。」（目標）を掲げています。

私たちは、自然とのかかわりが希薄になっている子どもたちを森林の中に連れ出し、自然と触れ合う活動をすることで、彼らの健全な成長を保障していきたいと考えています。子どもたちは、森の観察、遊歩道や階段づくり、除伐体験や植樹、樹名板や遊び場づくり、巣箱づくり、きのこの植菌、畑づくり、ネイチャークラフト、甲虫ビオトープづくりなどに夢中になって取り組んでいます。

作業体験中の中学生

○森林での環境教育とは？

森林での「環境教育とは、森林内での様々な活動体験を通じて、人々の生活や環境と森林との関係について理解と関心を深める」（林野庁）ことと言われています。つまり、人々の暮らしからの視点でも森林にどういう関りがあるのかを考えてもらい、より多くの人が森林や木材と関わっていこうというねらいを具現化するのが森林環境教育と考えています。

私たちは、森林での様々な活動体験を通して、「今地球で起きている環境問題」についても、考えるきっかけづくりを進めています。

○環境教育のフィールド、森林は「自然の学校」である

学校の森やＥＳＤ学びの森を訪れ、様々な森づくりなどに参加した子どもたちから感想文をよくいただきます。そこには私たち森林インストラクターへの感謝だけでなく、観察や森づくりを通していろんな学びの感想が綴られています。私たちは、森林や自然はそれ自体に教育内容を豊かに持っていると確信しています。

『ぼくたちのもりあそび』の語呂合わせで、子どもたちにとって森林とは何かと整理してみると、森林の持つ力がそのまま大きな教育力なっている場所であることに気が付きます。

これらの一つ一つが、子どもたちの成長にとって大切な学びであり森林は環境教育のフィールド、『森林は自然の学校』であると考えています。

（ぼ）冒険心が発揮できる
（く）工夫し自分で考え行動できる
（た）多数の動植物にふれ、自然をそのまま受け入れる
（ち）秩序を学び、みんなと力をあわせ仲良くなれる
（の）のんびり時間がゆったり感じられ優しくなれる
（も）森はふしぎに満ちあふれている
（り）理科はもちろん、いろんなことが学べる
（あ）危ないことや自然の怖さも知ることができる
（そ）創造性と空想力を育める
（び）びっくり、いろんなことが発見できる

Ｈ２６．５　ＡＫ工房作成資料より

企業や行政と連携しながら荒廃した里山を整備しつつ上手に活用し、森づくり活動を通じ、森林を自分の生活とつなげて考えることが出来る子どもを育てたいと考えています。学校の森やＥＳＤ学びの森、企業の森、県民の森・ことりはうす・こもれびの森等で開催する「森林体験」「親子の自然ふれあい教室」「森のようちえん」「みどりの少年団」「学校の森」事業を進めつつ、ＥＳＤや環境教育の普及に積極的に取り組んでいきます。

※ＥＳＤは、「持続可能な開発のための教育」と訳されています。未来の社会づくりの担い手、生きる力を育む教育のことです。

（「学校の森」ＥＳＤ推進委員長）

海岸林にいらっしゃーい

海岸林再生事業部　１４期　水原　洋一

今までの会報で高梨部長や森山さんが海岸林植樹の実績や今後の計画、海岸の植生などについてお知らせしてきましたが、新たなメンバーとして 18 期生の皆さんをお迎えし、またあまり海岸林の活動に参加されて来なかった方々にも海岸林植樹活動についてご紹介いたします。

ドライブが好き、暗算が得意、じっくり我慢タイプ、時々は海が見たい、海産品を楽しみたい、水辺のワシタカ類が見たい、畑の草取りに慣れた、**あなた、海岸林にいらっしゃーい!!♥❣**

海岸林再生植樹活動は、国（森林管理署）や県（森林整備課ほか）の海岸林再生事業に応募した各種団体に協力し当協会がイベントを中心に実施している活動です。（当協会が応募したものもあります）

植樹の時期は、主に早春から春、または秋に行われますが、一部夏休みに行われるものも有ります。また、雑草取りなど維持管理作業は夏場にも行います。植樹の場所は、県南の山元町から東部の東松島市までの沿岸部ですので移動に時間が掛ります。植栽用地は地下水位から約３ｍ盛土造成した基盤で、ここに約 1.4ｍ間隔（0.1ｈａに 500 本以上）で抵抗性クロマツを植樹するのがベースとなっていますが、震災以後に一斉に始めた事業なので標準となるものが無く、各団体が試行錯誤で行っています。当協会の方法が標準になるかも知れません。

植樹イベントの準備作業としては、用地の計測、植樹本数から植樹間隔の算定と位置出し、植穴耕しが主ですが、用地の水はけなどにより排水溝掘りやマウンド作り、マウンド養生の布切り、保水材用の水の運搬なども行います。企業の森のような地拵え作業はほとんど有りませんが、基盤の土質や固さにより唐鍬を曲げたり、ツルハシの柄が折れたりしたことも有りました。

イベントでは、苗や肥料などの運搬・配置、植樹方法の指導や結果の確認に加え、海辺の自然観察やネイチャークラフトなどいつもの子どもさんたちや参加者の皆さんとの楽しい活動も有ります。

植樹だけで終わらないのは海岸林も同じで、生育状況の確認や雑草取りなど約５年間維持管理を行い、必要なら補植も行いますので、密度の差は有りますが、ほぼ年中の活動となります。

更にこれらの作業は一部の刈払い機作業を除きほとんどが手作業となりますので、体力の維持・向上や精神力の強化に加え、帰宅後の美味しいビールを楽しむのにもって来いですよ!!（作業の機械化など色々工夫する余地も多いと思いますので、是非チャレンジしてみて下さい）

伊達の殿さまの頃から地域の人々が守り育てて来た海岸林が再びハクシャセイショウ（薄謝斉唱？）になるよう、子どもたちに引き継いで行きましょう。

たくさんの方々のご参加、ご協力をお待ちしております。

植樹イベントの準備作業

整然と植えるために植樹箇所の位置出し

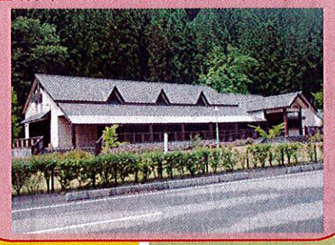
水はけ改善のために排水溝掘り

同じくマウンド作り

協会活動フィールド一覧

赤字→指定管理施設名
緑字→里山再生事業
青字→海岸林再生事業

宮城県こもれびの森森林科学館



花山ダム

栗原市

・蛇石せせらぎの森（大和町）
・ドコモ大和松倉の森
（株式会社NTTドコモ）
・三菱電機株式会社さん協定地
（三菱電機株式会社）
・カメイの森　宮城（カメイ株式会社）

・にっきそうの森（日機装株式会社）
・トヨタ紡織グループ　環境の森　大衡
（トヨタ紡織東北株式会社）

・西コミおっちゃの森（富谷市）
・四季の森（県民の森内　富谷市側）
　・高砂熱学工業株式会社さん
　・佐元工務店さん
　・キリンビール株式会社さん
　・セルコホームさん
　・パナソニック（株）エコソリューションズ社さん
　・三菱商事株式会社さん

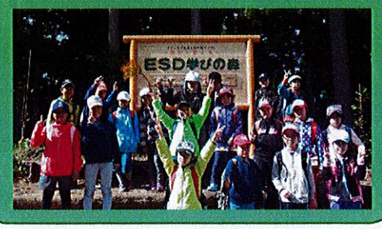
大衡村

大和町

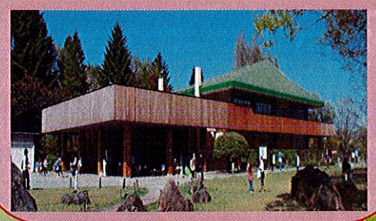
東松島市

・そらっぱクロマツ防災林
（ネッツトヨタ仙台）
・カワイの森
（カワイの森育成会）

・森から考える「ESD学びの森」
（ニッセイ緑の財団）
・ぐりりの森（株式会社東日本放送）
・宮城県ENEOSの森
（JXTGエネルギー株式会社と協働）
・そらっぱえがおの森（ネッツトヨタ仙台）
・イオンの森（イオンリテール株式会社）
・スミセイの森（住友生命保険相互会社）
・とうはつの森（東北発電工業株式会社）
・鈴木工業みんなの森（鈴木工業株式会社）
・旧・ニッセイ利府の森（ニッセイ緑の財団）



宮城県県民の森・青少年の森



富谷市

利府町

七ヶ浜町

・菖蒲田浜地区海岸林再生植樹（菖蒲田浜地区会）

・カワイの森（カワイの森育成会）
・ゴルファー未来の森　仙台（ゴルフ緑化促進会）

仙台市若林区

・そらっぱクロマツ防災林（ネッツトヨタ仙台）
・きぼうの森（ジャパングリーン株式会社）
・DCMホーマックの森（DCMホーマック株式会社）

蔵王町

蔵王山

岩沼市

亘理町

・亘理町　海岸林再生植樹（宮城県緑化推進委員会と協働）

山元町

宮城県蔵王野鳥の森自然観察センター「ことりはうす」

阿武隈川

・海岸林キッズの森
（国土緑化推進機構と協働）
・ゴルファー未来の森（ゴルフ緑化促進会）
・クミカの森（クミアイ化学工業株式会社）

新しい仲間、18期生の皆さんの自己紹介です！

18期　舟山　栄子

森林インストラクター協会の会員の皆様へ、森林インストラクターとして認証を受け、第一歩を踏み出したばかりの18期生を紹介したいと思います。

１年前の5月、未知への期待と希望でワクワクしていました。20代～60代まで年齢の差はありますが、学ぼうと思う意欲は同じでした。

２週間毎の研修は、講義と実習で、毎回新しい発見で、感動の連続です。レポート提出が毎回あり、テーマは、「繁殖方法から最も頭が良いと思うきのこを１種あげ、理由を説明せよ」・「植えたいと思う木は?」・「海岸防災林再生事業について思うこと」・「観察会の企画書」・「野外で活動する時、最も危険な生物は何か、その理由を説明せよ」ｅｔｃ.（毎回のレポートに、悪戦苦闘しながら作成していたのは私だけではなかったと思いたい）

２週間毎の研修で、先輩の森林インストラクターの方々の講義を受けながら、先輩方の活動に対する姿勢や知識の豊富さ、後輩に対する深い思いやりの心に触れ、畏敬と尊敬の念でいっぱい。

不安と心配と希望の18回の研修を修了し、試験も無事終え、3月、28名の18期生は森林インストラクターとして認証されました。（バンザーイ、26名の参加で打ち上げ）

森林インストラクターとしての初めての活動は、3月26日山元町の植樹作業でした。（参加した18期生のある人から、3月28日息子さんと一緒に山元町の植樹作業現場に行き、植樹活動の様子をお話されたとの報告がありました）

18期生は、向上心旺盛で、何事にも興味を持ち、パワーの持ち主が多いです。現在までに、18期生は、ボランティア活動、山登り、竹林の整備作業、お花見、植物観察会・・・等に参加し、知識と経験と交流を深めていますが、まだまだ「ひよこ」です。協会の活動に参加し、森林インストラクターとして活動できるようになりたいと思いますので、先輩方の温かいご指導をお願いいたします。

この４月から、「県民の森」に浅野幸徳（あさの　よしのり）さん（１６期）、「ことりはうす」に伊藤正義（いとう　まさよし）さん（１７期）、「こもれびの森」に二瓶芳徳（にへい　よしのり）さん（１８期）が新しく職員として入りました。Ｑ＆Ａの形でご紹介したいと思います。

Ｑ１　森林インストラクターになった動機を教えてください。
Ｑ２　趣味、特技を交えて、自己紹介をお願いします。
Ｑ３　インストラクターとしての抱負を教えてください。

こんにちは、県民の森の浅野です。よろしくお願いいたします。

Ｑ１

「山に元気がない」と言われます。山にかかわる人が少なくなり、放置された森林が増えたことや、ナラ枯れなどの病気が発生し枯損木が目立つようになりました。山の手入れをして環境を良くし、森林を守り育てていくことは、大切なことです。森林を整備する活動に参加して「山を元気にしたい」気持ちからです。

Ｑ２

趣味は淡水魚の飼育、ＤＩＹ、日帰り温泉、調理、体を動かすことが好きです。早朝から掃除や草取り、水槽の水換え、家の補修とスケジュールが多くて予定通り進みません。最近、炭火焼きにはまっています。生ホルモン一頭ぶんを捌いて、自家製タレに付けていただきます。

Ｑ３

県民の森には遊歩道が沢山あります、森の散策やイベントで多くの人が利用します。遊歩道の整備は枯損木や倒木の処理、刈払い等を行って安全に通行できる環境を維持管理することです。また清掃しきれいにする事で自然とふれあう機会を増すことになります。これからも整備の仕事を続けていきます。

ことりはうすの伊藤です。今年から職員になりましたのでよろしくお願いします。

Ｑ１

前の職場で、教科書はわかるがスギとコナラの区別もつかない若者が多くなったと感じていた時に孫が生まれ、孫や子どもたちにテレビゲームだけで育って欲しくないと思い、自分が学ぼうと思ったのがきっかけです。

Ｑ２

顔に全く似合わず、花や鳥が好きです。花はカトレアの原種ワルケリアナを温室で育てております。また、ヤマユリが大好きです。ヤマユリは日本を代表するユリで、世界でもまれにみるユリだと思います。鳥は祖父が飼っていたこともありヤマガラ・ヒガラが大好きです。

Ｑ３

自分一人がやれることは、それほど多くはありませんが50年後100年後、さらにはその先の宮城の子どもたちの世代を見据えた活動をことりはうすの中で頑張っていきたいと思います。

こもれびの森の二瓶です。よろしくお願いします。

Ｑ１

現職時より、都民の森で、植栽・間伐・道づくり・冬季の枝打ち等を体験し、森林サポートとして活動。また、日本竹の会に所属し、横浜の公園等の竹の手入れをしていました。

これまでの経験を生かし、地元に貢献したいと考え、この仕事に応募しました。

Ｑ２

合唱団に所属。月に2回練習、原語で「第九」を年に1回は歌います。体を動かすことが好きで、水泳・卓球・バド等をやります。7年前から、妻の実家の花山で、田づくり・竹の間伐・山の手入れ。日の出から日の入りまで、外にいることが多く何か作業をしています。

Ｑ３

長年、教室や実験室で理科を教えていました。頭の中での理解、これだけでは、自然を理解し好きになれるだろうかと、疑問。自然との十分な触れ合い、体験、経験が子どもたちの感性を育みます。自然と数多く触れ合い、参加者と一緒に学び、自分も大きく成長したいです。

安全のページ
「ことりはうす」の安全活動

14期　阿部　舜

「ことりはうす」からも安全委員をという話があり、安全委員会が仙台市内で開催されることから、仙台市内在住の私にお鉢が回ってきました。軽い気持ちで引き受け、一年が経過しようとしています。

私の安全活動は専ら「ことりはうす」周辺です。年二回行うこととされている安全パトロールは、蔵王自然の家と共催した「ネイチャービンゴ」、それと野鳥の森の森林広場の整備を対象にしました。どちらも事故なく無事終了、参加者の方々も楽しく過ごしていきました。安全講習会は「熱中症対策」と「ハチ対策」をテーマに「ことりはうす」関係者を対象に実施しました。

「野鳥の森」整備で感じたことを記します。

今年四月半ばの強風後の巡視で、真っ二つに折れたアカマツが、ウグイスコースを跨いで「かかり木」になっているのが見つかりました。

広葉樹の二股になったところに幹の元の方が挟まり、地面についた方の幹の先には蔓が絡んだ状態です。なおかつ幹元の方にはアカマツ特有のこぶがあり、とても幹先の方への移動はできないものです。

この「かかり木」処理で威力を発揮したのがチルホール（手動ウインチ）です。「ことりはうす」には、ごくごく最近入ったのですが、これまでのロープと人力とでの対応とは雲泥の差があります。

今回は先ず絡んだ蔓を切り離し、幹先から手の届くところまで幹を切り進め、宙ぶらりんとなったものを、二股越しにワイヤーを回して、チルホールで引っ張り上げ「かかり木」状態を解消しました。

「ことりはうす」では毎週火曜日が森の整備の日です。今回はコース上の「かかり木」ということもあり、日曜日でしたが急遽行うことになったものです。

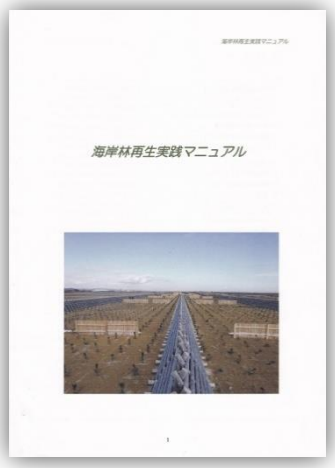
少人数での対応でしたが、効率もさることながら、安全に作業を進めるうえで文明の利器は大いに活用すべきと感じた日でした。

威力抜群のチルホールでの吊り上げ

インフォメーション

当協会が協力した海岸林再生活動のテキストが完成しました。すぐに役に立つ幅広い内容なので、実用的マニュアルとして活用していただきたいと思います。

数に限りがありますが、ご希望の方は事務局まで取りにきてください。



「海岸林再生実践マニュアル」

主な内容

Ⅰ　技術的な知識
Ⅱ　自然や環境を学ぶ
Ⅲ　活動組織の活性化に向けて
Ⅳ　協働・連携と活動計画づくり
Ⅴ　イベントの実施例

募集中

☆会報紙の表紙

表紙を飾る写真・イラスト・絵を募集します。活動中に目にする風景や自然をテーマにお寄せください。

☆紙上講座原稿

皆さんが密かに隠し持っている技術・得意技・情報を紙上で披露してみませんか。

連絡先　事務局まで

リレー式会員の広場
「季節の花だより」を聞いて・・・

14期　原田　良一

４月下旬ごろ、秋田県大潟村生態系公園でヒスイカズラが開花したとの記事を見ましたので、秋田県内でこの花を見ることができるもうひとつの施設である「能代エナジアムパーク」についての経験談を記してみたいと思います。

私は、平成13年夏から４年間本施設に勤務しました。本施設は火力発電所の排熱を有効利用しての熱帯植物園を併設したドーム型のＰＲ施設で、地域との交流の場として設置されました。植物園内では、ヒスイカズラのほか、バナナやパイナップル、レモン、キノミコーヒーなども植えられており、ビオトープには、ハスとコイもおりました。

そこでの行事の概略ですが、１月に園内の植物をテーマにした地域の小学生の写生コンクールでスタートし、早春の３月には、洋ラン展が展示室で開催され、地元の洋ラン愛好会の方々による作品展も同時に展示しました。４・５月の頃、山野草、エビネ、などの愛好会の方々による作品が展示され、展示室内は北国の春の気配を十分に味わうことができました。秋の気配が深まる10月に入ると、地元の自然観察員の方々による自然観察展―能代・山本地域の自然写真、植物標本、観察結果などの展示がありました。12月ごろになると野鳥の写真展があります。私が森林インストラクターになってみようと思った動機は、本ＰＲ館での見聞、体験があると思っています。

ここで、当時の経験談を少々お話しします。

植物園内の果物類の解説板に「みなさんにご覧いただくために取らないように」と表示したところ、それに反して取られてしまったり、その場で味見して、おいしくなかったのでしょうか、がっちり歯型のついた未熟バナナが出口付近に堂々と投げ捨てられているのを見ました。収穫間近のレモンに至っては、落下したらスタッフでレモンティーになどと計画していた矢先「館長、レモンがなくなってます。」との報告が・・・。

こんなこともありました。ある年の末に地域の方が、温室で蝶が孵化したが自分の温室では寒くて越年できないので何とかならないかとの相談。お預かりし、無事越年することができました。

近くに広がる「風の松原」では、マツクイムシの被害が北上し、ここで食い止めなければ青森西海岸にまで広がるとの懸念から、クロマツの落ち枝の回収、枝払い、落ち葉清掃等々若手発電所員等がボランティアで大活躍したのですが、半袖、半ズボンでの対応ということもあって、夕方から露出肌がどうも痛痒い。どうも林内での毛虫の毛の飛散が原因らしいとのこと。保健員から貰った特効薬の軟膏を回し塗りして一件落着。野外活動時は長袖、長ズボンが基本、と皆認識した次第でした。

西日本から来られた方が、ヒマラヤ桜を西日本では咲きそうもないのでヒマラヤに近い東北地方の寒冷地の方が適地では、ということで持ってこられました。温室のそばに適地を選んで植樹したのですが、結局のところ根付きませんでした。

ところで、能代エナジアムパークのヒスイカズラは、今年も見事に咲いたそうです。

ヒスイカズラ＝花は青緑の翡翠色です

次回は16期の岡野定玲子さんにリレーします。

【編集後記】

５月の海岸林植樹イベントは雨にたたられました。子どもは来ないだろうなあというあきらめムードのインストラクターの面々。あにはからんや、ほとんどの子どもたちが雨にも負けずにやってきたのでした。濡れて熱なぞ出してはいられんと子どもたちの意気込みに引っ張られました。ひ弱さなどみじんも感じさせない、たくましい子どもたちに明るい未来を感じました。（進藤）晴れて森林インストラクターとなられました１８期の皆さま、おめでとうございます。そして、どうぞよろしくお願いします。この頃はすっかり日の出も早くなり、朝からムクドリはせっせと虫をついばみ子育てに大忙しです。巣に寄ってくる猫やカラスに猛然とかかってく姿には、その勇敢さに感心させられます。皆さまは、巣立ちとともに即・成鳥ならぬ即・戦力。ぜひ「会報委員」にも果敢に飛び込んでみてください。自然観察だけではなく、別なものも観察できますよ！（ふじのや）

県民の森管理事務所
充実の一年に
所長　12期　蜂谷　仁

リニューアルオープンしてから早くも一年を過ぎ新年度に入りました。自主企画は新しい企画も仲間入りし、昨年以上の充実を図りスタートしています。協会員の方々の協力を頂き、参加されたお客様方に満足して頂けるよう職員一同取り組んでいます。

ゴールデンウイーク中は家族連れで大変な賑わいで、また春を彩った花々も影を潜めすっかり夏の装いへと変わりました。今、園内では野鳥マニアのカメラマン(?)の方々が、渡り鳥を求め彼方此方でシャッターチャンスを待っている姿が多くなりました。"会心の一枚が撮れますように"と祈るばかりです。

夏の花々の問い合わせも多くなり、特に『さつき園』の開花情報の問い合わせがほぼ毎日あり、『さつき園』は近隣の方々からの関心の高さを感じます。

見ごろを迎える『さつき園』

ことりはうす
なにか目新しいこと
所長　13期　高橋　恵美子

24年前に開館してから展示物は変わらぬままです。有料施設であるため、何らかの付加価値をつける必要性が高くなってきます。昨年度はクラフト作りをもっと気軽に楽しんでもらおうと、12月から無料のミニクラフトコーナーを始めました。滞在時間の長い人が増え満足してもらっているようです。新たな企画として、お手軽木工・森の時計作り等の他、秋には感謝祭も行いました。新たに整備した森林広場では、生物多様性のイベントとして「樹名板作り」と「森の遊び場作り」を行い、大人も子どもも一緒に元気に活動してもらいました。今年度も「何か目新しいこと」を探す日々が続いていきます。

森の遊び場作り

こもれびの森森林科学館
「開館しました!!」
所長　15期　千葉　敬一

春の訪れとともに森林科学館が開館しました。雪は例年より少なく、除雪作業は順調に進み、残雪の無い状態での開館となりました。

園内のミズバショウやカタクリの花も一斉に開花しました。今年度も月2回程度のイベントを計画し、お年寄りから子どもまで安全に楽しめる内容を企画しました。また、園内の湧水を利用して、川に住む小魚や水辺の生き物を水槽で飼育し、池にはイワナを放流しました。開館と同時に、県道沿いに施設案内板の設置（二十数ヶ所）も終了しました。

初夏を迎え、「こもれびの森」の新緑が輝きを増してゆきます。自然豊かな花山です。来館者が楽しむことができるよう努力していきたいと思います。会員の皆様のご来館もお待ちしております。

施設案内板

発行　特定非営利活動法人　宮城県森林インストラクター協会

〒981-0121　宮城県宮城郡利府町神谷沢菅野沢４１　青少年の森
TEL&FAX：022-255-8223
メール：mifi@bz04.plala.or.jp　HP：http://mifi.main.jp